



実施者	
《教 員》	千葉工業大学 未来変革科学部 経営デザイン科学科 教授 加藤 和彦 千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 准教授 大嶋 辰夫 千葉工業大学 情報変革科学部 高度応用情報科学科 助教 中川 泰宏
《学 生》	千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 加藤研究室 千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 大嶋研究室 文化系サークル6団体（ゲームサークル、航空工学研究会、精密ロボット工学研究会、総合工学研究会、ソフトメディア研究会、電子工学研究会）
《協働パートナー》	【行政】南房総市役所 市民生活部 市民課 市民協働グループ、南房総市役所 教育委員会 子ども教育課

1. 背景・目的

インターネットの利用が広がり様々な情報が瞬時にどこでも手に入る時代となったが、体を使って実際に触れて学ぶ機会は今の時代でも重要である。そのため、本プロジェクトは、南房総市を中心とした安房地域の子どもたちへ触れて学ぶ機会を提供し、科学・工学分野に対する興味を広げることが目的に、2018 年度から人材育成支援活動の一環として科学技術体験を行っている。

2. 活動内容

このプロジェクトの活動は 2018 年にスタートしており、2018 ～ 2019 年度は、リノベーションした公共施設を活用する「空き公共施設利活用プロジェクト」の枠組み内で子ども向け科学講座を実施した。この活動が評価されたため、2020 年度からは「人材育成支援プロジェクト」へと名称を変更し、定期的に科学講座を開いている。2019 年度までは対面で開催し、COVID-19 の影響があった 2020 ～ 2021 年度はオンラインで開催としている。2022 年度からは社会情勢を踏まえて、徐々にオンラインから対面開催へと戻しつつ、現在に至っている。対象者は主に小中高生としているが、2021 年度からは大人も対象に加え、企業や地域団体の人材育成支援の一環として、ホームページ作成支援なども行ってきた。2024 年度も例年同様、多くの参加者が見込まれ、評判となっている小中高生向けの「わくわく科学技術体験 2024」を 2024 年 12 月 8 日（日）に三芳農村環境改善センターで開催した。当時の募集チラシを図-1 に示す。本年度は、参加団体が昨年の 7 団体から 8 団体へと拡大し、体験できるコンテンツも「ロボット操縦体験」、

「ドローン操縦体験」、「電子工作体験」、「ゲーム体験」、「手作り科学体験」、「科学遊戯体験」と多岐にわたっている。本年度は南房総市市民協働グループスタッフと千葉工業大学スタッフ 43 名が運営に携わり、南房総市市民を中心に 131 名が来場した。昨年度の 99 名から大きく人数を延ばしており、総勢 200 名規模のイベントへと発展した。この体験講座は千葉工業大学の文化系サークル 6 団体（航空工学研究会、精密ロボット工学研究会、総合工学研究会、ソフトメディア研究会、電子工学研究会、ゲームサークル）と研究室 3 団体（加藤研究室、大嶋研究室、中川研究室）によって運営されており、子どもたちの体験を学生がサポートすることで、双方にとって豊かな経験となるイベントとなった。2023 年度から 1 階と 2 階の二つの大会場を利用したイベントへと拡大し、本年度はフロア全体を利用して 9 つの企画が用意された。この時の 2 階企画の様子を図-2、図-3 に、1 階企画の様子を図-4、図-5 に示す。

3. 成果と課題

昨年度より参加団体数が 1 つ増えたものの、基本的には昨年度と同じ広さで同じ形式のイベント形態となっていたが、来場者数は昨年度と比較して 3 割ほど数を伸ばした。周知の時期や広報戦略の違いも影響していると考えられるが、イベント自体の認知度が向上し、参加者が増えたとも考えられる。千葉工業大学内のサークル間での認知度も高まり、新たに参加を検討する団体も見られたため、今後の発展も期待できる。現時点で大きな課題はなく、参加団体や来場者の満足度も高いため、今後も継続的に実施していく予定である。



図-1 「わくわく科学講座」の募集チラシ



図-2 ロボット操縦体験の様子（2階会場）



図-3 ドローン操縦体験の様子（2階会場）



図-4 科学遊戯体験の様子 1（1階会場）

域学協働の工夫！

- ★南房総市の人材育成ニーズと千葉工業大学シーズのマッチング
- ★事業を後押しする行政との相互連携
- ★オンライン会議を利用した行政との緊密な連携

4. 総括

これまでに多くの講座や体験イベントを企画してきたが、参加者や来場者の評価は概ね好評であった。オンライン開催時は機器の準備の敷居が高いせいもあり、申込者が伸び悩むことが多かったが、対面開催は概ね成功と言える活動となっている。南房総市と千葉工業大学双方にとって有意義な取り組みであるため、今後も継続的に体験型の科学講座を実施し、より広いターゲットも視野に入れた地域貢献活動へとつなげていきたい。

*表彰・マスコミ掲載など

・“ロボット操縦うまくできるかな 南房総市で「わくわく科学技術体験」”，房日新聞，p4，2024 年 12 月 20 日



図-5 科学遊戯体験の様子 1（2階会場）